

令和8年 第1回北九州市立図書館協議会 会議録

日 時： 令和8年1月9日（金） 14：00～15：05
場 所： 北九州市立松本清張記念館地下1階 企画展示室

出席者

○委員（会長他11名、欠席委員3名）

北九州市立大学図書館長	浅羽 修丈（会長）
（一社）北九州市P T A協議会相談役	福田 百合加（副会長）
北九州市学校図書館協議会会長	上満 佳子
福岡県公立高等学校校長協会北九州地区会長	石川 一仁
（一社）北九州市保育所連盟副会長	伊賀良 昌宏
公募委員	澤野 亜由美
北九州市社会教育委員	大河内 哲子
北九州市婦人団体協議会理事	柿内 よし子
北九州市障害福祉団体連絡協議会事務局長	森 聖子
北九州児童文化連盟理事	八木 真恵
九州国際大学図書館長	山口 秋義
（公財）北九州産業学術推進機構	
中小企業支援センターマネージャー	北嶋 知美

○事務局（中央図書館長他9名）

中央図書館長	高松 淳子
中央図書館運営企画課長	藤原 定男
中央図書館奉仕課長	佐藤 時子
子ども図書館長	福嶋 一也
中央図書館運営企画課庶務係長	田中 真徳
中央図書館運営企画課デジタル企画係長	田島 利晃
中央図書館奉仕課奉仕係長	堀尾 節子
中央図書館奉仕課資料係長	山口 典子
子ども図書館企画係長	荒田 智代
子ども図書館学校図書館支援係長	北谷 真司

○傍聴者 なし

会議次第

- 1 はじめに
- 2 新委員紹介
- 3 議事 1 令和8年度北九州市立図書館の事業計画案について
 - ①令和7(2025)年度北九州市立図書館の事業評価(上半期分)
 - ②令和8(2026)年度北九州市立図書館の事業計画 (案)

1 はじめに（館長挨拶）

日頃より、市立図書館に対するご理解やご支援、また、図書館運営に関するご意見や評価等を賜り、心から感謝申し上げる。本年も、市立図書館は、北九州市立図書館基本計画に基づき、「学び、やすらぎ、つながる図書館」として、さらに多くの市民の皆様が様々な目的で気軽に立ち寄り、地域の人々との繋がりや関わりを創り出す交流拠点として、役割の拡大を目指して参りたい。

今回の協議会では、令和8年度に推進する事業計画の案について協議していただきたい。それにあたり、まずは中間点検として、令和7年度の上半期分の事業実施状況について報告する。事業評価報告の様式は、令和6年度までのものから刷新しているので、その点もご意見いただきたい。令和8年度事業計画案の説明では、「こどもも大人もわくわくする居場所、行きたくなる図書館」をキーワードに、多くの市民の方々のニーズに応えて利用者の満足度をさらに上げ、図書館の機能を拡大させる取組を推進していきたい。図書館協議会の皆様をはじめ様々な方からのご意見を踏まえて計画を作成し、より多くの市民の方々の心豊かなときを創造するお手伝いができるような取組に努めたい。次年度の取組がよりよい取組となるよう、本日もご意見等どうぞよろしくお願ひいたします。

2 新委員紹介

事務局から新委員の紹介

3 議事

(1) 令和8年度北九州市立図書館の事業計画案について

①令和7(2025)年度北九州市立図書館の事業評価(上半期分)、②令和8(2026)年度北九州市立図書館の事業計画 (案)について、資料に基づき、事務局から説明

＜令和7(2025)年度北九州市立図書館の事業評価(上半期分)について＞

(委員) 令和7年度の事業目標について。図書館は、昔のイメージだと人が集うというよりは本のための図書館というイメージが強く、「つながる図書館」という新しいイメージが持てないと思うので、イメージを拡げていくためのPR活動をどんどんしていくのがよいと思う。

(委員) ビブリオバトル講習会・大会について。中学生対象のビブリオバトル

ル大会を開催したこと、その前にきちんと講座を開いたことがとてもよい取組だと思った。以前、他の地域での話だが、ビブリオバトルで優勝した子の母親から、スポーツも勉強も得意でないその子にとって、受賞は人生の中で自分を認められたよい機会だった、という喜びの感想を聞いたことがあるので、よい取組だと思って報告を聞いた。

(事務局) ビブリオバトルの取組への共感、感謝申し上げる。講習会は、これまで各学校が独自のルールで行っていたところを、統一した公式のルールで実施しようということで、講師を招いて開催したもの。講習会後、全市の中学生を対象に募集をかけて開催したビブリオバトル大会には、公立だけでなく私立からも参加があった。大会当日の様子だが、最初は一言も喋らないで本を読んでいた参加者たちが、ひとたび大会が始まると、そこが自分と雰囲気が同じで安心できる場所として、その子たちにとっての読書コミュニティが開け、安心して推し本（好きな本、おすすめの本）を紹介しており、参加者も聴衆も感動した大会となった。感想の中には、「初めて会ったが、この大会・読書を通して、お友達が増えた」といったものが多くあったので、来年度は対象の拡大なども検討している。

(会長) 北九州市立大学の方でもビブリオバトル大会を実施している。ビブリオバトルでは学生も自分の推し本を一生懸命アピールしており、私が読んだこともある本が我々にはないような観点から紹介されており、新たな気付きやもう一度読んでみたい感覚を得ることができた。本に親しむという意味でも、素晴らしい活動だと感じている。

(委員) 私がかつて教育現場にいた頃も、本好きの子どもが毎日私のところにやってきて、新しい本の解説をしていくということがあった。そんな子は今でも絶対いるので、ビブリオバトルは継続的にいろんなところに浸透していくとよいと考えている。図書館を中心として、ぜひ広げていただきたい。

(委員) 図書館ボランティアの活動内容の拡充について。七夕飾り作成もとてもよいと思ったが、できれば地域の幼稚園や小学校と連携していくと、図書館がそこにあることを分かってもらえるのではないかと思う。その他、現在の取組については、とても充実していると思う。

(事務局) 子ども図書館のジュニアセンター（中学生図書館ボランティア）は、現在でも幅広く活動しているが、現時点の活動範囲は館内にとどまっている。今後、センターたちのモチベーションを上げるという意味でもいろいろな方法があると思うので、地域等に出ていくということも含め、検討してまいりたい。

(委員) たくさんの講座等を開催されていて、実は私も遠慮はしたけど参加したいものがあった。わくわくする感じがするので、こういう取組も

続けていただきたい。

- (委員) 中央図書館の開館50周年記念のイベントについて。中央図書館だけで収めるともったいない気がする。設計者である磯崎新氏は全国から建物を見学に来るような有名な方なので、全国的に何かできたらよいのではないか。他には、例えば市内の他の図書館とも連携して北九州市全体で何か取り組む、無理な話かもしれないが、九州工業大学の建築系学科の学生さんも巻き込んで何か取り組むなどできたらよいのではと思った。
- (事務局) 昨年度の取組にはなるが、北九州市立美術館が取りまとめ役となり、北九州市と出身地である大分市の磯崎新氏の建築作品の動画を撮影し紹介したり、美術館で氏に関する講演会を開催したりと、他施設との連携事業を行った。そのうち、中央図書館と子ども図書館に関連する部分の動画を、PRとして中央図書館のエントランスモニターで公開している。
- (委員) 資料5ページ「子ども向けのイベント・講座の開催」に記載されている「ぬいぐるみのおとまりかい」について、詳しく教えてほしい。
- (事務局) ぬいぐるみのおとまりかいは、門司図書館で行われている今年度4年目のイベント。具体的には、参加した子どもたち所有のぬいぐるみが図書館でお泊まりをし、その様子をアルバムにして参加者にプレゼントするというもの。人が図書館にお泊まりするのではなく、その分身、アバターとしてぬいぐるみが図書館にお泊まりするもの。今年度は16名の参加があり、お返しする際にぬいぐるみと一緒に写った本を紹介することで、本の貸出に繋げることもできたと聞いている。
- (会長) 子どもたちの反応は実際どうだったのか、簡単に教えてほしい。
- (事務局) 図書館に馴染みのあるお子さんもあまりないお子さんも、ぬいぐるみを活用することによって、図書館に親しみを感じてもらえたのではないか、と聞いている。

<令和8(2026)年度北九州市立図書館の事業計画(案)について>

- (委員) 基本目標1の2に「幼稚園・保育園、学校図書館と連携した子どもの読書活動の推進 **継続**」とあるが、幼稚園・保育園で具体的にどのような取組を行う予定か、分かれば教えてほしい。
- (事務局) 子ども図書館では、北九州市子ども読書活動推進会議に保育所連盟、幼稚園連盟の代表の方にもメンバーとして加わっていただいている。現行の第4次子ども読書プランでも、乳幼児期の子どもたちの読書活動の基盤づくりが重要だという観点から、図書館からの読み聞かせボランティアの派遣や、絵本の団体貸出などを行っている。

現在策定中の第5次子ども読書プランでは、要望等も受け、幼稚園・保育園の先生方を対象にした読み聞かせ・絵本の選び方の研修を実施しようと考えている。第5次子どもプランでは、発達段階に応じた子どもたちの読書活動の推進を重点に置いているため、幼稚園連盟や保育所連盟のご協力をいただきながら、連携していろんな取組を行っていきたい。

(委員) 保育所でも普段から読み聞かせをしているが、得意な先生もいればそうでない先生もいる。やはり、専門の方に講義していただけたと読み聞かせについて学べると思うので、とてもよいことだと思う。

(委員) 先日、保育所連盟の研修大会で、室井滋氏率いるしげちゃん一座を招いて絵本の朗読と演奏を聞く機会があった。とても楽しんで参加でき、BGMがあるとより絵本の内容にのめり込むと実感した。最近は色んなメディアもあるので、そういうものも活用できたらよいのではないかと思う。

(会長) 「BGMとともに」というのは、私も非常に共感するところである。同じ聴覚であっても、多様な感覚を刺激するという意味では、BGMは大変効果がある。私は情報心理学が専門の1つだが、BGMの有無によって、心の響き方はもちろん、印象に残るかどうかが変わってくるという研究結果を見たことがある。こういった経験的、科学的な知見を基に、よりよい活動ができたよいなと思った。